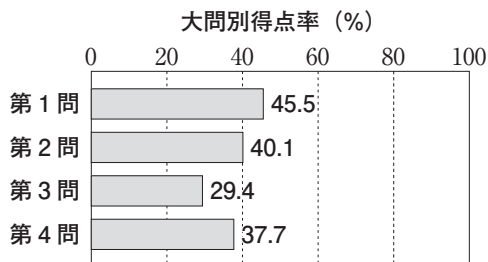
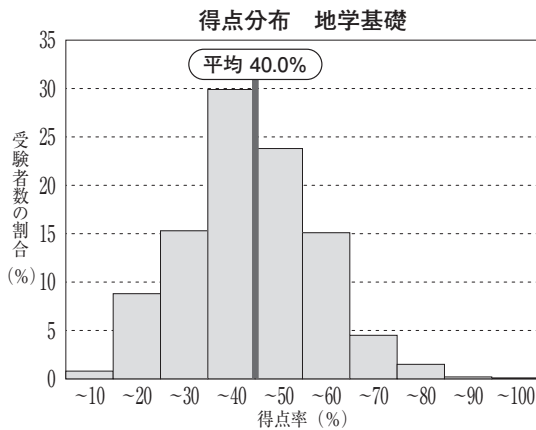


地学基礎

論理の展開を把握しよう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は20.0点であった。4月時点で一通りの学習を終えている受験者も多かったと思われるが、十分に演習を積み、知識を定着できている受験者はまだ少なかったようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生も含め年6回で「地学基礎」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と不足点を判定できるよい機会である。模試を活用し、一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

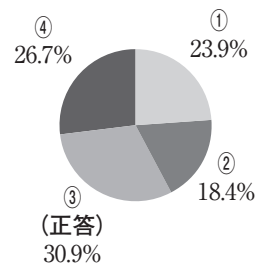
第1問 地球とその活動

地学現象相互の関係を理解しながら覚えよう。

Aでは地球の層構造についての基礎的理解を確認した。地球内部を実際に見ることはできないが、地震波の解析から地球の内部構造が明らかにされている。各層の構成物質や境界面の深さなどをまとめておこう。

Bではマグマの性質と火山と火山活動の関係についての総合的理解を確認した。問題の表はとても大切である。火山の例を教科書などの写真で確認し、噴火の様子をイメージしながら覚えよう。

問1 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、
選択率の合計は100%にならないことがある。
以下同様。

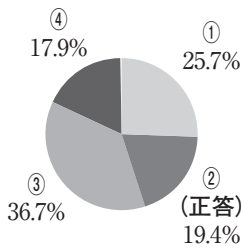
第2問 大気・海洋と地球環境

知識を基に仕組みを理解しよう。

Aでは地球の熱収支についての総合的知識と理解を確認した。問題図1のような地球のエネルギー収支では、数値を覚える必要はない。つり合いの関係を理解し、計算ができるように問題図1の意味をよく理解しておこう。

Bでは海水の大循環についての理解を確認した。海洋表層の水平方向の循環、および表層から深層に達する大規模な鉛直方向の循環について、それぞれの仕組みを理解しておこう。

問4 [9] 各選択肢の選択率

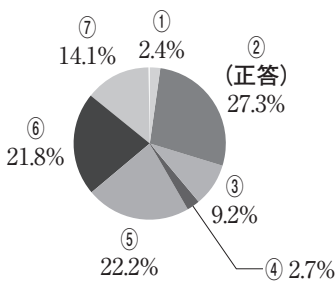


第3問 太陽系

太陽系に関する知識を整理しよう。

太陽系の天体についての総合的理解を確認した。解説の表を参考に、地球型惑星と木星型惑星の特徴を、対比させながら正しく覚えておこう。太陽系に関しては、太陽や惑星についての問題が頻出だが、問1のように小惑星やその他の天体についても問われる可能性がある。それぞれ特徴をまとめておこう。

問2 [12] 各選択肢の選択率

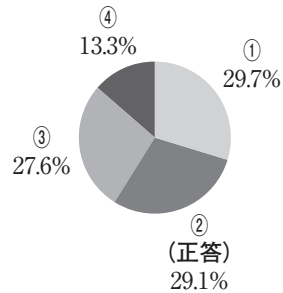


第4問 太陽と地球の進化

宇宙や地球の歴史を把握しよう。

宇宙と地球の歴史、太陽の進化についての総合的理解を確認した。宇宙の始まりから現在に至る、星や銀河の誕生と進化について、各段階での様子や時間スケールを確認しておこう。また、地質時代の主な出来事についても整理しておこう。

問2 [14] 各選択肢の選択率



Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく、学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し、教科書を徹底理解することが大切である。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学基礎は暗記科目ではないということである。

「地学基礎」の学習ではまず教科書を通読しよう。教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。大事なことは、各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされ、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。描くことで、見るだけではわからなかったポイントが見えてくるはずだ。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。